

ランチョンセミナー8

Luncheon Seminar 8

日時 2025年7月25日(金) 12:40～13:30

会場 ランチョンセミナー会場1
秋田キャッスルホテル北館4F 矢留の間A
〒010-0001 秋田県秋田市中通1丁目3-5

心臓リハビリテーション

循環器医の意識改革を目指す先

座長 渡邊 博之 先生

秋田大学医学部附属病院 病院長

秋田大学大学院医学系研究科医学専攻機能展開医学系 循環器内科学講座 教授

演者 猪又 孝元 先生

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 循環器内科学 主任教授

新潟大学医歯学総合病院 循環器内科 診療科長

本ランチョンセミナーは事前予約制ではございません

セミナー当日に整理券を配布いたします。

整理券配布場所 あきた芸術劇場ミルハス 1F エントランスロビー

共催：第57回日本医学教育学会大会
フクダ電子北東北販売株式会社

ランチョンセミナー8

Luncheon Seminar 8

心臓リハビリテーション 循環器医の意識改革を目指す先

猪又 孝元

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 循環器内科学 主任教授

新潟大学医歯学総合病院 循環器内科 診療科長

循環器診療が大きな転回点を迎えている。カテーテル治療を筆頭に、心臓の一部分を修理することが重要視され、いわゆる部品医療が蔓延していた。しかし、心臓の一部を修理しても、心臓はおろか患者そのものに幸せを導けない事例に現場が気づき始めた。循環器病とは、心臓を取り巻く全身病であり、何十年という歴史を辿った末に生じた疾患である。このような観点から循環器診療には、点から線、そして、面といった多次元のシステム作りが重要と考えられるようになった。今や心臓リハビリテーション(心リハ)の主要な対象疾患となった心不全を取り上げ、日常診療における循環器理学療法の意義を考える。

実例をあげよう。リアルワールドの循環器診療に根ざした疫学データは極めて乏しいが、病床数177人のある地域密着病院からの代表的データを紹介する。心不全は誤嚥性肺炎に続き第2位の入院疾患であり、平均年齢が85歳(全体の平均年齢は77歳)、院内死亡率は19%に及ぶ。80歳以上が8割近くを占める年齢分布から、リアルワールドの心不全はもはや超高齢者心不全と同義語に近く、少なからずフレイルと認知症を併発する。今後、心不全における終末期医療の議論は、避けて通れない。ただし、目の前の高齢者患者が有する病態の主体が心不全としての終末期なのか、あるいは老衰のような自然経年的な終末期なのか、の判断は決して容易ではない。しかも、高度医療を担う地域の中核施設が累積する患者群にどのように対峙し、地域医療とシェアしていくのかが問われている。心不全診療では今後、ますます社会的側面が強調され、われわれの全人的なセンスが問われていくものと思われる。それを支えるための多職種を束ねた包括診療の銚(かすがい)は、心リハチームに他ならない。常に、その自覚を心に繋ぎ止めていただきたい。

共催：第57回日本医学教育学会大会
フクダ電子北東北販売株式会社